

第一印象は日々の生活が大切！

季節は春、入学やクラス替えなど、新しい環境での生活が始まる季節です。また、新たに知り合った仲間と過ごす日々は、自分らしきを出せずに戸惑うことばかりか、優しく声をかけられても目つきや仕草が気になり、苦手なタイプと決めつけてしまうことがあります。まだ話したこともないのに、外見だけでその人を判断するようなことは良くないと思いつつも、第一印象は、意外と心に残ってしまうものです。

この理由の一つには、最初の視覚や聴覚からの情報が記憶に残るメラビアン（Melvin Albert Liberman）の法則があります。社会心理学では、これを初頭効果と言ひ、その人への対応は最初に提示されたものがいつまでも影響を与えるそうです。このように初対面は、自分が思う以上の影響を相手に与えていることも意識しなければなりません。

地獄めぐりで有名な大分県別府市に温泉旅館を営む大学の先輩がいます。お客様は、お出迎えの時に受けた感触で「また来たい」と感じるそうです。この最初の接客を印象よくするためには、日頃からの心がけが大切だと言います。挨拶、笑顔、服装の着こなし、髪形、足元などを常に意識することで心の余裕が生まれ、気持ちを込めた本当のおもてなしができるのだそうです。

第一印象が日々の生活の中で身に付けた所作であるとするならば、最初に受けた印象がその人の性格や人柄と判断してしまうのも理解できるのではないのでしょうか。

また、第一印象に限らず、日々与えている印象が自分のためでもあり、相手への敬意にもつながる大切なことだと分かります。

例えば、ビジネスの世界であれば、社員の印象はとても重要です。初動での不備が記憶にいつまでも残れば、企業のイメージにまで影響を及ぼします。いくら自分の中身を見て判断してほしいと願っても、初めに見られた外身により社会人としての礼儀やマナーを身に付けているか評価されてしまいます。

つまり、頭髪や衣服などの身だしなみを整え、言葉や態度をきちんとすることは、周囲の人へ不快な思いをさせないための配慮と考えることができます。私が常々皆さんに伝えている大人の感性とは、まさに自分本位のおしゃれとは違う常識を備えた大人であることをアピールするために必要なパフォーマンスなのです。

「コラ～！くつ下を上げろ！」「ネクタイ正せ！」「お～い！シャツが出てるぞ！」「ホームルーム始まるぞ！廊下は走るな、でも急げ！」「何度言えば分かるんだ！」いつものように職員室前では、朝の光景があります。本校は、他校に比べて髪形や制服の着こなしにとっても厳しいとの声もあります。

しかし、皆さんも、高校卒業後、数年経てば社会人です。本校は、学校でしか通用しないことは教えていないはずですが、他人を不快にさせない印象を日常生活の中で定着させていくことは、皆さんが近い将来、身だしなみを武器に必ずや好印象を持って活躍できると期待するからです。今はきっと口うるさいと感じる人もいるでしょう。しかし、この先生の声のおかげで身に付いた習慣が社会へ出た時に恥をかかなくて済んだと気が付くのはそれほど先のことではないのかもしれない。

「しっかりしろ、頼むぞ！」教師の厳しくも熱い内なる心の言葉は、学びの匂いとなって、教室に駆け込む生徒の背中を後押ししていました。

令和6年4月

